



# 知床科学委員会 しんぶん

## エゾシカ・陸上生態系

### ワーキンググループ NO. 11

知床世界自然遺産地  
域科学委員会

エゾシカ・陸上生態系  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザリー会議



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

#### エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

#### 今回の会議

平成 28 年 6 月 28 日 (火) 釧路地方合同庁舎にて、今年度第 1 回目の会議がありました。

必見!  
TOPIC

## 5 年ぶり 3 度目の 広域ヘリコプター調査を実施しました

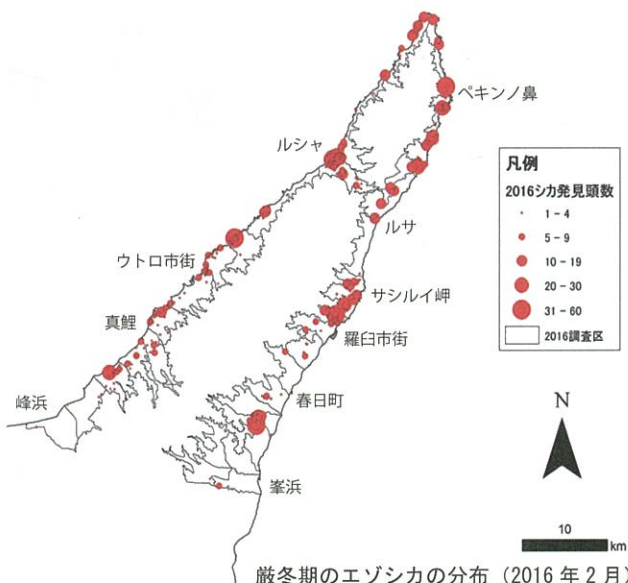
2016 (平成 28) 年 2 月 16 ~ 25 日、ヘリコプターを使って上空からエゾシカを数える調査を、知床半島のほぼ全域で実施しました。半島全体の航空調査は、2003 年 3 月、2011 年 2 月にひきつづき、5 年ぶり 3 度目です。半島全体で 319 群れ、1,725 頭のシカを直接目視で発見しました。

今回 (2016 年 2 月) の結果を 5 年前と比較すると、半島西側 (斜里町側) で全体的に減少傾向、半島東側 (羅臼町側) では一部

をのそいてほぼ横ばいとの結果でした。

一部地区では 2012 年春の大雪による自然死亡も多少は影響しているようですが、基本的にシカの捕獲事業を重点的に実施している地区においては、シカを減らすことができているか、少なくとも増加を食い止めることはできているようです。

\* 羅臼町の春荻古丹川の北側では減少傾向、同共栄町・海岸町地区では若干増加傾向との結果でした。



調査中にヘリコプターから撮影したエゾシカの群れ



## 今回主に話合ったこと

- ① 昨冬の知床世界自然遺産地域及び隣接地域におけるシカ捕獲の実施結果
- ② 今年度の植生調査やシカ捕獲事業の方針について
- ③ 第3期知床半島エゾシカ管理計画の素案について

## 注目!

### ユネスコ・IUCN勧告への対応 ～ 植生指標 (ものさし) ～

世界遺産は、その保全状況やユネスコ・IUCNからの勧告への対応状況などについて、定期的にユネスコに報告することが求められます。知床世界自然遺産地域は、2008年に17項目の勧告を受けましたが、そのうち4項目がエゾシカの管理に関するものでした。エゾシカ関連の勧告で最も重要なものは、「遺産地域内の自然植生に対するエゾシカの食害が、許容可能なものか許容できないものかの限界点を明らかにすることができるとは、明確な指標を開発すべきである」というものでした。つまり、「世界遺産でシカの捕獲を始めた、中止した、再開した時の基準(ものさし)をもっと明確に定めなさい」ということです。



クサフジ



チシマセンブリ



オオバナノエンレイソウ  
の開花個体数



エゾキスゲ  
の開花個体数

#### 段階2

シカが減ると  
増加する

#### 段階3

シカが大幅に減ると  
増加する

### 「ものさし」となる植物たちの例

力を減らしてから少し時間が経たないと回復してこないため、その後も調査が継続されていました。今回の会議では、その後の調査結果もふまえて、そろそろこの「植生指標」について、ユネスコへの具体的な回答案の作成準備をしましょう、ということになりました。

2013年時点では、シカを減らした後の植物の回復過程を経過年数に従って4段階に分け、約20種の指標の増減などを評価する案が提示されていました。今年の植物調査の結果も踏まえて、今後は案の修正などが行われる予定です。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



■問合せ先■  
環境省釧路自然環境事務所  
〒085-8639  
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階  
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

新委員の矢部  
です。



学生時代に知床でエゾシカの研究をしたのち、九州のニホンシカや、シカに食べられる植物の調査をしていました。

知床で20年以上前に私が見た植生の様子は、シカが増えた影響で大きく変わってしまったのちに、近年は関係者の皆様のご尽力により捕獲が進み、シカが減ったことによる回復の兆しを見せている場所もあると伺いました。今後植生にどのような回復が見られ、十分な回復を何によって判断するのか、モニタリングその他様々な検討が必要だと思います。

委員 矢部 恒晶  
(森林総合研究所 北海道支所)